

平成三十一年度

第一回 入学試験問題

国語

注意

- ・ 試験時間は五〇分です。
- ・ 解答はすべて解答用紙の定められたらんに記入
しなさい。
- ・ 記入方法をあやまると得点になりません。
- ・ 句読点・記号も一字に数えます。
- ・ 漢字書き取りの答えははっきりと書きなさい。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学校四年生のゆなは、妹が生まれるまで九州に住む祖父の家^いに預けられることになった。祖父は昔ながらの印刷所「文海堂」を営んでいた。そこに、六年生の井上君^{いの上}と吉田さん^{よしだ}が、夏休みの職場体験のためやってきた。

三人はまず、作業台をかこんで、じいじの説明を聞くことになりました。

「印刷するのにさいしょに必要なものは原稿^{げんこう}、これがないとはじまらない。ふたりとも、用意しとるな？」

吉田さんと井上くんは、あらかじめ書いていた原稿をだしました。ふたりとも、どぎまぎしているようです。

「おれのは、夕涼み会^{ゆりやみかい}の案内です」

井上くんが、声にだして読みはじめました。

「えっと。夕涼み会のお知らせ。8月6日（土曜日）夜7時半から、大瀬西小学校校庭^{おおせ}において、野球チーム主催^{しゅばい}の夕涼み会を開催^{かいさい}します。くじ引きもあります。みなさま、ふるってご参加ください」

「ああ、よう書けとるね。吉田さんは？」

「はい。上の雪^② さむかろな。つめたい月がさしていて。下の雪 重かろな。何百人ものせていて。中の雪 さみしかろな。空も地面^{じよたん}もみえないで。」

「ほお、それは？」

「はい。金子みすゞの詩です。国語の時間に習って、それで好きになって」

「よかよか。じゃあ、活版印刷の流れをざつと説明するよ」

じいじは、いままでも小中学生の職場体験などで、児童や生徒を前に話をしているのでしょう。むだ口はいわず、なれたようすです。

吉田さんも井上くんも、いそいでノートを開き、えんぴつをかまえました。

それで、ゆなもふたりのまねをして、茶の間に走り、自由ノートとえんぴつを持ってきました。三人はそろって、じいじが説明する活版印刷の手順をノートに書きつけました。

手順を書きおえると、三人は、活字の棚^{たな}の前に移動しました。

「わあ、これって、ぜんぶ文字なの?！」

「たくさんあるー！」

活字棚をはじめて見る井上くんと吉田さんは、同時に声をあげました。

「ゆな、『あ』を拾ってみ」

じいじにいわれて、ゆなは、すぐに「あ」の活字を選びました。きのう、ひらがなをたくさん拾ったので、だいたいの場所を覚えていたのです。

「はい、『あ』です！」

と、自信たっぷり、活字をつまんだ手をあげました。

「え！」

「なんで？　なんで？」

六年生たちは、びつくりして、ゆなの指先の活字を見えています。金属の活字はにぶく光っています。

「すげえ！　負けた！」

井上くんが大げさにのけぞったので、みんなわらいました。

ゆなは、六年生とすっかり打ちとけました。自分の原稿の活字を拾う、というじいじの指示で、三人はワイワイさわいで、さいしょの仕事をはじめました。

「ゆなちゃん、助けて、アッキーに負ける！」

「ミク、ズルすんな！　ゆなちゃん、こつち！」

と、六年生は、ゆなの取り合いです。

「アッキー、はい！　ミク、これ！」

ゆなも、ふたりのことを友だちのようにびながら、活字棚の前を行ったり来たりしています。

「これ、『お』じゃねえ、『あ』だよ」

ゆなが手わたした活字を見て、アッキーが、それをポイツとほうり返しました。

「まちがえた！」

ゆなは、あわてるあまり、活字を受けとりそこねました。活字は、宙を舞い、音をたてて床に落ちました。

「こら、なにをする！」

とつぜん、じいじのカミナリが落ちました。

「活字は金属でできとるけん、乱暴にすると、ケガをするつとぞ！」

ゆなと六年生は、じいじのけんまくにおどろいて、直立の姿勢になりました。

じいじは、床の活字を拾いあげ、それをじいっと見つめました。

活字が一部分でも欠けると、どんなに腕のいい職人さんでも、きれいな文字を刷ることはできません。

小さな活字のすみずみをたしかめてから、じいじは、やっと顔をあげました。

「……活字は遊びもんじゃなか」

「は、はい」

アッキーは、それ以上はむりというほど、肩をすくめて、ちぢこまっています。

すると、こおりついた空気をなだめるように、

「はい、ちょっと休まんね。こっちにどうぞ」

と、ばあばが、赤いスイカを盆ぼんにのせて、茶の間からでてきました。

「……休もうか」

③ じいじの声はしずかでしたが、顔はまだ真剣しんけんでした。

「ごめんなさい」

ミクが頭をさげると、アッキーとゆなも、そろって頭をさげました。

「ごめんなさい」

「じいじ、ごめんなさい」

「はい、反省したら、食べていいの」

ばあばの笑顔えがおにうながされて、ゆなたちは、すなおに、お客さん用のテーブルに移動しました。

切ったばかりのスイカは、切り口からあまい汗しるがたれています。

「さあ、えんりよせんでよかよ」

ばあばにいわれて、ゆなと六年生は、スイカにかぶりつきました。スイカのあまさは、三人の緊張きんちやうをなだめてくれるようです。

「……どうね？ やはり活版印刷はむずかしかね？」

しばらくのあいだだだまっていたじいじが、急に口を開きました。

「は、はい」

とつぜん声をかけられたアッキーは、はじかれるように顔をあげました。④

「機械のしくみとかはむずかしいですけど……でも社長さん、活版印刷って、なんか版画ににてますね。おれ、四年生のとき、図工の時間に版画をしたけど、まだ版木が家にあります」

「あ、それなら、わたしの部屋にもまだある。下絵を描かいて、版木をほって、そこにインキをつけて、紙をおしつけて、刷って」

ミクが、手順を思いだすように、一語一語ゆつくりといました。

「よかところに目をつけたね。それこそが活版印刷のはじまりなんだよ」

じいじは、なんともうなずきました。さっきまでのおこった顔は、どこかに消えたようです。

しぼんでいたゆなの気持ちも、また元気を取りもどし、

「じいじ、わたしも考えた」

と、とつさに思いついたことを、すぐさま話しました。

「あのね、お母さんがたまにホットケーキを焼くけど、そのとき使うフライパンに、アルファベットが書いてあるんだ。その文字、反対だよ」

いいながら、ゆなは、お母さんがホットケーキの生地きじを専用のフライパンに流すようすを思い出しました。生地がプツプツしてきたら、それをひっくり返します。するとそこに「BUNNY」の文字

とウサギの絵がでるといわけです。

⑤「ああ、それもそうよ。ようわかったなあ、ゆなちゃん」

ばあばが、首にまいたタオルで額の汗をふきふき、なんでもうなずきます。

「そんなフライパンはないけど、お昼にホットケーキを焼こうかね」

もう昼近くになつていゝのです。

「それなら、字はちがうけど、うちにもあります。わたし、持ってきますよ！」

ミクが大声で提案しました。

「そうね、それじゃあ、持ってきて。みんな、てつだつてくれんね」

「やったあ」

ゆなは、両手をあげました。ホットケーキを作るのは、ずいぶんひさしぶりです。お母さんを気づかなくて、焼いて、とおねだりしないようにしていたのです。

「おれ、ミクの家、自転車で行つてきちやる。あ、ごちそうさまでした」

アッキーはスイカの皿をテーブルに戻すと、さっと表に飛びだしていきました。

カチャン。自転車のストッパーがはずれたと思うと、たちまち車輪の音が消えていきました。

「あれま」

「こりゃ、せわしかことになつたなあ」

じいじとばあばは、顔を見合わせました。

ゆなも、おとなしく待つてはいられず、すばやく立ちあがりました。

「わたし、お皿を用意する！」

「ゆなちゃん、わたしもてつだうよ！」

ミクが、ゆなの後についてきました。

いちどにお姉ちゃんとお兄ちゃんができたみたいです。しかもやさしいお姉ちゃん、たよりになるお兄ちゃんです。

(ぎょうだいつて、いいなあ)

ゆなは、はじめてそう思いました。そして、自分にも、もうすぐ妹ができるのだと思うと、胸がキーンとしました。

いっしょに遊んで、いっしょにじょうだんをいつて、ときにはいい合ひして、いっしょにわらえる。もちろん、いっしょにホットケーキも焼けます。

「ホッ、ホッ、ホットケーキ、ホットケーキ！」

台所へつづくろうかを歩きながら、ゆなとミクは、いっしょに口ずさみました。

(『拝啓、お母さん』佐和みずえ)

問一 〰️線Ⅰ「あらかじめ」・Ⅱ「けんまく」の本文での意味として適切なものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- Ⅰ「あらかじめ」 ア 最初に イ 丁寧に ウ 前もって エ 各自で
- Ⅱ「けんまく」 ア 荒々しい態度や顔つき イ 驚きあきれた表情
- ウ 怒りのあまり我を忘れたようす エ 相手を攻撃しようとする敵意

問二 〰️線①「夕涼み会の案内」とあります。あなたが、掲示板に貼るためのポスターを制作するとしたら、どのように書きますか。次の条件をふまえて「夕涼み会の案内ポスター」を書きなさい。

- 条件1 本文に書いてある情報を不足無く書き入れること。
- 条件2 わかりやすく、見やすくする工夫をすること。（縦書きでも横書きでもよい。）

問三 〰️線②「上の雪 さむかるな。つめたい月がさしていて。下の雪 重かるな。何百人ものせていて。中の雪 さみしかるな。空も地面もみえないで。」という詩について、次の各問に答えなさい。

- 1 この詩に使われている表現技法として、あてはまるものを次から全て選び、記号で答えなさい。
- ア 倒置法 イ 擬人法 ウ 反復法 エ 体言止め
- 2 この詩を説明したものととして、最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。
- ア 積もった場所が異なる雪を、それぞれ気づかう作者のやさしさが感じられる。
- イ つらい世の中を耐えて生きる人々を雪によって表現し、社会を批判している。
- ウ 子供のような純粹な感性で空想の世界を作り出し、幻想的な華やかさを表現している。
- エ 冷たい雪に囲まれて生活する人たちの悲しみに共感した作者の悩みが表れている。

問四 〰️線③「じいじの声はしずかでしたが、顔はまだ真剣でした。」とありますが、活字を乱暴に扱った子供達に対して、「じいじ」はなぜ真剣に注意したのですか。本文の言葉を使って、二点に分けて説明しなさい。

問五 〰️線④「はじかれるように顔をあげました。」とありますが、このときの「アッキー」の気持ちとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 急に考えてもみなかった難しい質問をされて、うまく答えられるかわからず緊張している。
- イ 今まで怒っていた社長さんに突然話しかけられたので、驚くと同時にほっとしている。
- ウ 活版印刷について考えていたことがあったので、上手に返答して怒りを解こうと思っている。
- エ 話しかけられることを期待して待っていたので、質問されて誇らしく気分が高まっている。

問六 —— 線⑤「ああ、それもそうよ。」とありますが、その内容を説明した次の文の空らんA、Cに適切な言葉を入れなさい。

A も

B と同じように、

C

という点で活版印刷と似ている。

問七 本文の内容に合っているものは○を、合っていないものには×をつけなさい。

ア ゆなは甘えん坊^{あま}で、周囲への気づかいができない子供だったが、じいじとばあばの厳しくもやさしい愛情に包まれて成長していった。

イ アッキーは少々軽はずみで頼りにならないが、明るく元気な少年である。ホットケーキのフライパンを自宅に取りにいて、みんなを喜ばせようとするサービス精神もある。

ウ じいじは、自分の仕事に誇りを持っており、未来を担^{にな}う子供達や孫のゆなにも、活版印刷のすばらしさを知ってもらいたいと思っている。

エ ミクはライバルのアッキーと職業体験に参加し、緊張していたが、そこで妹のようなゆなと知り合って幸せを感じている。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

動物は自分が動いて食料を探さなければならぬから、そこには弱肉強食^①の関係が存在している。しかし植物は自分の食料は光合成で自己生産できるわけだから、動物界のような弱肉強食の関係は存在しない。

植物の場合には光を受けることが自分の食料生産につながるわけだから、光を受けるための争いはどの木にも見られる。強い木が大きく葉を広げて、下にいる植物の光を独占^{どくせん}する行為^{こうゐ}を弱肉強食と呼ぶのなら、わずかに存在しているとも言える。

動物が生存競争する場合、自分が食料とする場合には殺すが、相手を追い払^{はら}うことが目的ならば、相手が負けを宣言すれば殺して殺したりしない。もちろん結果的に相手が死んでしまう場合もあるだろうが、殺すという行為は人間だけのものである。

ところが植物の場合には化学物質で闘^{たたか}うから、より強力な物質を使用して相手を枯^からしてしまうことがある。相手を追い払うわけにいかないから、結果的に枯らすという行為になってしまうのである。

動物には凶暴^{きょうぼう}な動物と優しい動物がいるように、植物にも陰湿^{いんしつ}な植物と優しい植物がある。とは言ってもこれはあくまで人間の表面的な見方で、植物と話をしたわけではないから、「諸般^{しよはん}の状^{じょうぎよう}況^{きわう}から考えると」という注^{ちゅうしやく}釈^{しやく}をつけなければならぬ。

たとえば生長した木にしがみついて、その木が汲^くみ上げてくる水を途中^{ちゆうちゆう}で盗^{ぬす}んで生きている植物がいる。この植物を客観的に見たときに「狡賢^{ずるがしこ}い植物」と言えるし、最後に本家に巻^まきついて絞^しめ殺^{ころ}してしまう植物などは「悪魔^{あくま}のような植物」と言うしかない。

植物のこのような行為は、植物が生きるための知恵^{ちえ}として持っているとしたか考えようがないから、植物に心があるというような表現を私はしてしまっているのである。

山形県の天然ブナ林に何回か入り込んだことがあったが、ブナの木はどちらかと言えば優しい心を持つている木という感じがする。

ブナ林に入ってみると、ブナの木はそれぞれが一定の広さを確保して生きていることがわかる。このスペースには様々な植物が共生しているが、ブナの子どもはこのスペースの中では芽を出すことができない。乱立すれば水不足や光不足で全体が生きていけなくなることをブナの木は知っているからかも知れない。

しかしブナは子孫を残す。それは自分が死ぬときに枯れた自分の身体を養分にして、一本だけ子どもに芽を出させる。これが育つて次の時代のブナ林を引き継いでいくのである。

ブナの葉は枯れ落ちると水分を吸収する特性があるので、この枯れ葉が数年堆積^{※たいせき}すると湿地帯^{しつち}のような土壌^{どじよう}ができあがる。

この土壤は他の植物にとつては絶好の土壤だから、様々な植物が所狭しと芽を出し、山菜採りの時期には山菜の宝庫と呼ばれるようになる。

自分の子どもの芽を出させないブナは一見、身勝手に冷たい木という感じがするが、これはまったく逆で、周囲の植物に実に優しい心遣いを見せる。

春が来て他の樹木がみんな緑の葉を繁らせても、ブナの木はじつと我慢して葉を広げない。葉を広げないから下の土壤には光がよく当たり、他の植物達は順調に育つてくる。

最後の段階まで来ると、ブナの木は突然のように葉を広げる。だからブナ林はごく短い期間で緑の森に姿を変えるのである。

ブナは寒地の山に多いから、場所によっては一年の半分を雪の下に埋もれて生きている木が少なくない。そうなると残りの半年で次の年を越すための養分を蓄積しなければならぬ。

ところがブナはその半年で溜めた養分を、自分のためだけではなく多量に地面に戻してやるのである。この養分の恩恵に浴するため、他の植物は競つてブナの木のみまわりに集まってくる。

私が実験場として選んだのは、山形県の月山に広がるブナ林であったが、ブナの木から取り込んだデータが見せたものは、昼夜を問わぬ見事な働きぶりであった。

ブナ林がつくる土壤は昆虫にとつても絶好の住処である。昆虫が集まる所には鳥も小動物も集まる。だからブナ林はブナを中心として一つの小世界をつくり上げるのである。

ブナの葉が堆積した土壤は水分をたっぷり含んでいるから、ゆつくりと水を川に流す。だからブナ林の下流は洪水や濁水が少なく、そのうえ、ゆつくりと土壌からしみ出す水は養分が多く含まれているので川の魚類がよく育つ。昔から各国がブナの木を「母なる木」と呼んだゆえんはここにあるのである。

このまったく逆の例としては杉林がある。杉は養分を大地にあまり戻さないし、水を蓄積する土壤をつくらぬから、大雨が降ると洪水を起こし日照りが続くと濁水を招く。そのうえ根から毒を出し、それが川に流れるので、杉林を持つ川には魚類が少ない。

⑥ だが、人間が木の品質を定める基準は木の行為ではなく、その中身である。それが人間社会にとつて有益ならばよい木で、無益ならば悪い木である。だからブナのように水の吸い上げが多い木は伐採後の乾燥が上手くいかず、材木にしたときに狂いが生じるために悪い木とされている。

日本でも炭を多用していた時代にはブナは切られるためにある木のような感があったが、最近あまり切られることもなく保護林として数カ所が残されている。

⑦ 欧州のいくつかの国には昔ブナ林がたくさんあったのだが、不要材木としてほとんどが伐採されてしまった。今になって再生を試みているが、伐採前の状況に戻すためには単純計算でも五百年程度はかかるであろう。

人間と植物が共生する難しさは、その植物に対する価値判断の基準が異なることにある。植物界にとつてどんなに必要な木でも、人間社会の利用価値が低ければ切られてしまう。その逆に利用価値が

高ければ、植物界のバランスを崩してまで造林してしまう。

だから材木としては何の役にも立たないマングローブ林などは、西表島※いりおもてしまだから残されているが、都会近郊きんこうに繁殖はんしよくしていたら真先に伐採されてしまっただろう。しかしマングローブ林もブナ林と同じように、様々な海中生物と共生しながら一つの世界をつくり上げているから、伐採すれば死ぬのはマングローブ林だけではなく、たくさんの海中生物が生きるすべをなくして死滅しめつしてしまうのである。世界各国が自然保護のために植樹を始めているが、やはり人間社会に利用できる木を植樹している例が多い。しないよりした方がよいのは当然なのだが、できれば自然⑦のバランスを植樹に生かしてほしいものである。

イナゴが異常発生すると、その通里道の島はなに莫大ばくだいな被害ひがいが出る。しかし最終的にはイナゴ自身が食料不足で全滅ぜんめつしてしまう。

造林も自然のバランスを崩すと同じような結果になることを知っておいていただきたい。

(『植物と話がしたい―自然と音の不思議な世界』神津善行)

- ※ 堆積 …… 積み重なること。
- ※ 恩恵に浴する …… めぐみを受ける。
- ※ 月山 …… 山形県中部にある火山。信仰の山として知られる。
- ※ 渇水 …… 雨が降らなくて、河川や貯水池などの水がかれること。
- ※ ゆえん …… 理由。わけ。
- ※ マングローブ …… 亜熱帯や熱帯の海岸や海水の入ってくる河口に生えている植物。
- ※ 西表島 …… 沖縄県西部にある島。

問一 ―― 線①「弱肉強食」は、「強弱」という反対の意味の語を使った四字熟語です。次の言葉の空らんらんに反対の意味の漢字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

- 1 □□音 (大勢の人が口をそろえて同じことを言うこと)
- 2 針□棒□ (物事を大げさに言うこと)

問二 ―― 線②「植物にも陰湿な植物と優しい植物がある。」とあります。「陰湿な植物」について具体例をあげている部分を三十五字以上四十字以内でぬき出し、最初の五字で答えなさい。

問三 —— 線③「ブナの木はどちらかと言えば優しい心を持っている木という感じがする。」について、次の各問いに答えなさい。

1 ブナの、他の植物に対するどのような働きから筆者は「優しい」と表現しているのですか。
あてはまらないものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア ブナの枯れ葉が水分をよく吸収するため、枯れ葉の積もった場所では多くの植物が生きられること。

イ ブナの木は周囲は水不足や光不足になりやすいため、他の植物の芽を出させないようにしていること。

ウ ブナの木は春が来てはすぐ葉を繁らせないため、その周囲の植物が日光に当たってよく生長できること。

エ ブナの木は溜めた養分を多量に地面に戻すため、その影響で周囲の植物がよく育つこと。

2 ブナの優しさは人間にも恩恵を与えていますが、その恩恵の内容として本文から考えられることを二つ答えなさい。「ブナはくので、人間はく。」という形式で答えること。

問四 —— 線④「ブナの子どもはこのスペースの中では芽を出すことができない。」とありますが、ではどのようにしてブナは子孫を残すのですか。そのことを説明している一文を本文からぬき出し、最初と最後の五字で答えなさい。

問五 —— 線⑤「このまったく逆の例としては杉林がある。」とあります。ブナ林と杉林のちがいを表にしました。空らんA～Cにあてはまる語句を、指定の文字数で本文からぬき出しなさい。

| 影 響 | 水 分 | (A 二 字) | |
|-------------------------------|--|-------------|-----|
| (A) が多く含まれている水によって川の魚がよく育つ。 | 枯れ葉が吸収し、大量に蓄積するため、 (B 三 字) のような土壌になる。 | 多量に地面に戻す。 | ブナ林 |
| (C 一 字) を出すため、川の魚が育たない。 | 蓄積する土壌をつくらない。 | あまり地面に戻さない。 | 杉林 |

問六 —— 線⑥「人間が木の品質を定める基準は木の行為ではなく、その中身である。」とあります。「中身」の内容を説明した次の文の空らん1・2にあてはまる四字の語を本文からそれぞれぬき出し、文を完成させなさい。

1 で 2 があるかどうかということ。

問七 —— 線⑦「自然のバランス」とありますが、それを別の言葉で言いかえている部分を本文から十五字以内でぬき出し、解答らんにあてはまるように答えなさい。ブナ林やマングローブ林をふまえて答えること。

問八 この文章は、「植物の生きるための知恵」「ブナ林の特徴」「人間と植物の共生」の三つの段落からなっています。二段落と三段落はどこからですか。それぞれ形式段落の最初の五字をぬき出した組み合わせとして、適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 二段落：植物のこの 三段落：世界各国が
- イ 二段落：ブナの葉は 三段落：日本でも炭
- ウ 二段落：しかしブナ 三段落：このまった
- エ 二段落：ブナ林に入 三段落：人間と植物

問九 本文の内容にあてはまるものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 植物には、人間のように「優しい」や「狡賢い」と表現できる生態が見られるため、植物にも心があると断言できる。
- イ 世界各国は環境改善のため、自然のバランスを考えた植樹を始めており、今後大きな成果が見込まれる。
- ウ ブナが「母なる木」と呼ばれるのは、人間をふくめて様々な生き物をはぐくみ、それらに恩恵を与えるためである。
- エ ブナの木はそれぞれが一定の広さを確保して生きているが、それは他の木が出す化学物質の影響を受けないためである。

三

言葉に関する次の問いに答えなさい。

問一 次の文は、ハンカチをプレゼントしてくれた親せきのおばさんに送るお礼の手紙です。

——線部を敬語を使った適切な言い方に直して答えなさい。

先日はすてきなハンカチをプレゼントしてくださり、ありがとうございました。お花の刺しゅうが愛らしく、使うたびに気持ちがなごみます。昨年誕生日におばさんにもらったカバンも大切に使っています。

おばさんにはなかなか会う機会がないのですが、今年の夏休みにはぜひお宅に行きたいと思っています。

それでは、お元気で。さようなら。

問二 次の文の空らんにあてはまる一語を指定の文字数で入れなさい。

1 マラソン大会に向けて特訓した。(三字) 一位だった。

2 八月になった。(三字) 梅雨がまだ明けない。

3 ごはんを食べようか、(四字) パンを食べようか。

問三 次の——線部の語と同じ意味・用法を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

1 押しても引いても動かない。

ア 廊下で走るとあぶない。 イ うそをつくのはよくないことだ。

ウ 外の音はほとんど聞こえない。 エ このごろ野菜が安くない。

2 夏休みに海で泳いだ。

ア 私の好きな色は青だ。 イ この本はもう読んだ。

ウ 友人のことが心配だ。 エ このりんごはおいしそうだ。

3 今度の試験は簡単らしい。

ア すばらしい演奏ができた。 イ 秋らしい服を着ている。

ウ とても中学生らしい男の子だ。 エ 明日は晴れるらしい。

4 人に道を聞かれる。

ア 電車の中で足をふまれる。 イ 先生が話される。

ウ 強く押されてたおれる。 エ 幼い日のことが思い出される。

問四 次の言葉の反対語を漢字二字で答えなさい。

- 1 自然 2 増加 3 生産

四

次の――線1く5のカタカナを漢字に直しなさい。送りがなが必要な場合はひらがなでつけること。

- 1 インフルエンザの予防セツシユを受ける。
- 2 車のオウライが激しい。
- 3 エイセイ管理をし、健康を保つ。
- 4 たがいにオギナイ合うよいコンビだ。
- 5 チームを勝利にミチビク。

平成三十一年度第一回入試
国語解答用紙

受験番号

氏名

得点

問一

| |
|----|
| I |
| ウ |
| II |
| ア |

問三

| |
|-----|
| 1 |
| ア・イ |
| 2 |
| ア |

問二

問四

印刷の仕上がりを左右する活字は、職人にとって大切なものだから。
(活字が欠けると、きれいな文字を刷ることはできないから。)

金属でできた活字があたると、ケガをするから。

問五

| |
|----------------|
| イ |
| 問六 |
| A |
| ホットケーキ専用のフライパン |
| B |
| 版面 |
| C |
| 文字が反対に出る |

※別解有り

問七

| |
|---|
| ア |
| × |
| イ |
| × |
| ウ |
| ○ |
| エ |
| × |

問一

| |
|---|
| 1 |
| 異 |
| 口 |
| 同 |
| 音 |
| 2 |
| 針 |
| 小 |
| 棒 |
| 大 |

問二

| |
|---|
| 生 |
| 長 |
| し |
| た |
| 木 |

問三

| |
|---|
| 1 |
| イ |

問三

2

ブナは山菜にとって絶好の土壌を作るので、人間はその山菜をたくさんとることができる。
ブナは水分をゆっくりと川に流すので、人間は洪水や濁水などの自然災害を避けることができる。
(ブナは栄養の豊富な水分をゆっくりと川に流し、それを吸収して川の魚がよく育つので、人間はたくさん魚をとることができる。)

問四

| |
|---|
| そ |
| れ |
| は |
| 自 |
| 分 |
| ゝ |
| 出 |
| さ |
| せ |
| る |
| 。 |

問五

| |
|---|
| A |
| 養 |
| 分 |
| B |
| 湿 |
| 地 |
| 帯 |
| C |
| 毒 |

問六

| |
|---|
| 1 |
| 人 |
| 間 |
| 社 |
| 会 |
| 2 |
| 利 |
| 用 |
| 価 |
| 値 |

問七 別解 一つの世界をつくり上げている

問七

| |
|---|
| 上 |
| げ |
| る |
| こ |
| と |

問八

| |
|---|
| 一 |
| つ |
| の |
| 小 |
| 世 |
| 界 |
| を |
| つ |
| く |
| り |

問九

| |
|---|
| ウ |
|---|

問一

| |
|--------------|
| ① |
| いただいた |
| ② |
| お目にかかる・お会いする |
| ③ |
| うかがいたい |

問二

| |
|---|
| 1 |
| だ |
| か |
| ら |
| 2 |
| し |
| か |
| し |
| 3 |
| そ |
| れ |
| と |
| も |

※別解有り

問三

| |
|---|
| 1 |
| ウ |
| 2 |
| イ |
| 3 |
| エ |
| 4 |
| ア |

問四

| |
|----|
| 1 |
| 人工 |
| 2 |
| 減少 |
| 3 |
| 消費 |

問四

| |
|----|
| 1 |
| 接種 |
| 2 |
| 往来 |
| 3 |
| 衛生 |
| 4 |
| 補い |
| 5 |
| 導く |